

# いのち・社会・ 現代文明を考える！！

「いのち論『瘡』という病から」

最首 悟さん (和光大学名誉教授)

水俣病は公式確認から半世紀以上も経つのに、未だ解決の見通しが立たない。どうしてそうなったか？これを解くには、政治・経済・社会的な、そして学問的な要因・問題を多角的に検討しなければならない。そして、その帰結として、根本的に軽んじてきた(いのち)というものが、見えてくるだろうか。(最首悟『水俣誌視々パート2「瘡」という病から』)



「持続可能な社会のための技術はいかにあるべきか」

井野 博満さん (東京大学名誉教授)

技術はあくまでも目的を実現し達成するものですが、いかなる目的を設定するかが重要になります。技術は価値中立的ではなく技術者の価値観や倫理観が色濃く投影されるので、産業社会の要請と技術者の価値観と倫理観が複雑に関係し交錯することになります。利益追求の価値だけを求められる産業社会の要請に抗して、市民はどのような技術システムを求めるのか、技術者は人間的な価値観と倫理観をいかに実現するか、それは私たちの生き方の問題に繋がっています。

(『徹底検証 21 世紀の全技術』藤原書店)



「ソフトパスを進めるために」

山口 幸夫さん (原子力資料情報室・共同代表)

ハードパスとは、エネルギーや資源の大量使用に支えられる利便性の高い社会をめざすシステムや理念を示す。(ゆたかさ)は競争原理を通して実現され、地球環境より経済成長が何よりも優先される。ソフトパスとは、平和・人権・環境・共生の理念を人々の暮らしと社会のあり方を基本に据えて、持続可能な社会の実現をめざすものである。



**日時 2019年8月18日(日) 13時～18時30分**

**場所 立川ホテル(立川市曙1丁目12-23)**

**主催 2019ミニ教研(第24回) in 東京**

**会場代 1,000円**

19日 「伊達判決に学ぶ」内田雅敏さん(弁護士)、「砂川闘争」島田清作さん

20日 砂川学習館、横田基地、五日市憲法発祥の地等を巡る

事務局：小泉 信三 TEL/FAX 0235-24-1482(自宅) e-mail: kkoizumi@beige.plala.or.jp